

第六回 NCNP多発性硬化症カンファレンス ご報告

第六回 NCNP多発性硬化症カンファレンスは、おかげさまで沢山の方にご参加いただき、無事終了いたしました。ありがとうございました。

まず始めに、免疫研究部山村部長が「MS診断と治療の最前線」と題して50分の講演を行いました。MS患者の診療には様々な難しさがあるなかで、近年の目覚ましい治療の進歩があり、研究と臨床の距離が近く、やりがいがあるという話が印象的でした。次に、同部の三宅室長が「MS基礎研究の世界」として、EAEというMSの動物モデルについて紹介しました。昨今MS研究においても注目されつつある腸内細菌や粘膜免疫を含む自然免疫系の研究の話が魅力的でした。

最後の2題は当研究部の若手研究者による体験に基づく発表で、まず流動研究員の千原が「センター病院レジデントから免疫研究へ」と題して、神経内科レジデントがどのようにして臨床応用に結び付く研究を行ったかについて、つぎに佐藤は2年間のドイツ・ミュンヘンでの留学生活について紹介しました。研究内容だけでなく、研究を行う文化や風土についての話が印象的でした。

